一般発表

「建学の精神」に則した大学体育授業のアセスメント：
大規模私立大学を事例とした予備的検討

近畿大学　西　田　順　一

キーワード：授業評価，教育の目的，私立大学

問題と目的

大学体育授業は履修者にとって種々の側面にて有効性が高いと大局的見地からは見做せるが，実施母体である各大学では様々な課題を抱えつつ授業運営がなされていることに目を向ける必要がある。西田（2019）によると，大規模私立大学での体育授業では，多くの学生が履修しているものの履修率はさほど高くないこと，専任教員によるクラス担当が少ないこと，そして多様な学生の学びの保証は未対応であること等が示されている。上述示された課題は，国公立大学にて開講される教養体育科目に比べ大規模私立大学において顕著であるように思われる。しかしながら，大規模私立大学のみにあらず，多くの大学が抱える課題であり，かつ将来の大学体育授業の発展に関わる課題であるとも捉えられる。

さて，授業運営にかかる種々の課題解決の鍵の１つとなると考えられるのは「建学の精神」である。「建学の精神」とは大学がどのような人材育成を目指しているかを端的に表したものである。いずれの大学にも設置目的や設立の趣旨があるが，とりわけ各私立大学では「建学の精神」に創設者の強い想いが込められ，各大学の個性や特徴を形成している。

以上より本研究では，「建学の精神」により案出された「教育の目的」に則った体育科目をアセスメントするための予備的検討を行った。本研究より，「教育の目的」に則した体育授業への取組みを探索し，学修行動の指標づくりに資することを目的とした。

方　法

調査対象者

Ａ大学にて令和５年度春学期に開講された教養科目（体育実技「生涯スポーツ１」）を履修した2,044名を調査対象とした。調査の協力が得られた1,421名のうち，重複回答や不完全回答を除いた1,295名を分析の対象者とした。

調査内容

学部名，年齢，学年，性別，運動部・サークルへの所属状況の基本的属性を調査した。また，選択種目名と意欲的取組の程度，そして運動・スポーツを行うことの好き嫌いについて尋ねた。

Ａ大学では，「人に愛される人，信頼される人，尊敬される人の育成」を教育の目的に掲げてきた。この教育の目的に則した体育科目での取組みの内容を調査するにあたって，西田他（2014）を参考に，①尊敬に値するクラスメイトの取組み，②信頼できるクラスメイトの取組み，そして，③愛されるクラスメイトの取組みに関し，それぞれ他者観察より認識した点を箇条書きによる自由記述を求めた。

調査方法

対象者に調査内容について Google Forms を用いて回答するよう協力の依頼を行った。その冒頭には調査目的や趣旨，成績評価には関係の無いこと，得られたデータの使用や保管，倫理的配慮等について記載した。これらを一読し，承諾した場合に回答するよう求めた。

解析方法

テキストの解析には，大量の文字データにおける頻度や関係から新たな事実をあぶりだすことが可能とされる NTT データ数理システムの「Text Mining Studio（TMS ver.7.1）for Windows」を用いた。

結果と考察

対象者の属席

対象者は，理工，文芸，農，法，経済，経営学部等に属していた。また，対象者は男性 851名（66%），１年次 1,110名（86%）であった。大学運動部，サークル所属は40% を占め，運動・スポーツ実施の肯定的回答は80% であった。

「教育の目的」に則した体育授業への取組みの内容

上述したＡ大学における「教育の目的」の内，ここでは，誌面の都合上「信頼される人」について示すこととした。先ず，得られたテキストの基本情報を確認した。「信頼される人」について，総文数は，1,466文を示し，１文あたりの文字数は平均15.5文字であった。また，述べ単語数は4,605単語であり，単語種別数は1,105となった。「愛される人」に比べ全般にわたり多かったが，「尊敬される人」に比べ全般にわたり少なかった。

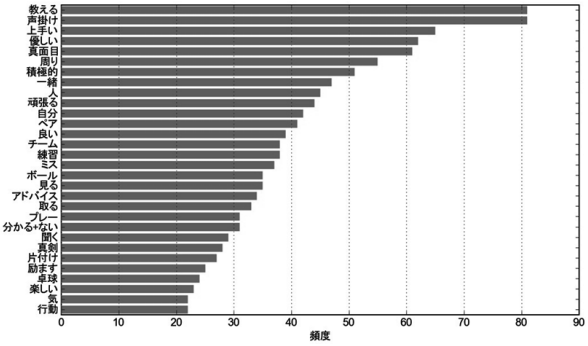

図１　「信頼される人」に関する単語頻度解析結果

次に，「信頼される人」について単語頻度解析を実施した結果（図１），「教える」，「声掛け」の両単語数は80を超え，並外れて多かった。これら以降は，「上手い」，「優しい」，「真面目」という単語が続いた。また，係り受け頻度解析の結果，「周り－見る」が再頻出であり，続いて「話－聞く」，「アドバイス－くれる」，「一緒－いる」の度数が非常に多かった。さらに，頻度数が多かった「教える」という単語への注目分析の結果，「親身」，「褒める」，「コツ」，「詳しい」，「仕方」，「振り方」，「打ち方」，「やり方」，「上手い＋できない」，そして，「分かる＋ない」が直接的なつながりを示した。同様に，「声掛け」の注目分析の結果，「体調」，「いろいろ」，「高める」，「心強い」，「多い」，「どんまい」，「大きい」，「雰囲気」，そして，「大丈夫」が直接的なつながりを示した。

続いて，共起を10回に設定したことばネットワーク分析の結果，＜ミス＞，＜一緒＞，＜アドバイス＞，＜話＞，＜分かる＋ない＞，＜取る＞という６カテゴリが作成された。

以上の結果から，「信頼される人」は，教示や声掛けを頻繁に行い，また運動の上手さが特徴であった。このことから，「信頼される人」は，履修者間の運動技術の教え合いや学び合いが包含された概念である可能性が示唆された。すなわち，適切な運動技術が理解できない際やミスを生じた際等に他履修生からアドバイスや励ましを受けるといった行動が「信頼される人」の取組み内容を示すことが示唆された。

今後はより詳細なテキスト分析により，教育目的に則した体育授業の取組みを精査する必要がある。

引用文献

西田順一（2019）大学体育授業を主題としたこれまでの研究の動向 ── 「大学体育学」を手掛かりにして ── ．体育・スポーツ教育研究，20，42-44.

西田順一他（2014）テキストマイニングによる大学体育授業の主観的恩恵の抽出：性および運動・スポーツ習慣の差異による検討．体育学研究，60，27-39.

付　記

本研究は「近畿大学経営学部教育改善プロジェクト研究経費（研究代表者：西田順一）」を受けて実施された。

謝　辞

本研究の実施にあたり，田邉智先生，田中ひかる先生，熊本和正先生，橋本剛幸先生（近畿大学経営学部）および近畿大学常勤・非常勤教員，職員の皆様にご支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。